

写真で見るトマトの定植

写 真	説 明
	野菜配合肥料（右上、N－P－K－Mg－B 7－8－6－0.20－0.10＜％＞）、苦土カル（右下）、腐葉土（左）を用意する。 
	上記を全面散布する。 県の作物別施肥施用基準によれば、トマト（露地）の窒素の成分量は $15.0 \text{ kg}/10 \text{ a}$。この配合肥料は 7％だから、$214 \text{ kg}/10 \text{ a} = 0.214 \text{ kg}/\text{m}^2$。散布した面積は 10 m^2なので、2.1 kg 散布すればよい。（牛糞堆肥と異なり窒素成分の少ない腐葉土の窒素量は考慮しない。）
	全面散布された状態

写 真	説 明
	耕うん機（ロータリーカルチ）で耕うんする。
	レーキで平らにならす。
	マルチフィルムを張るため、両サイドを土中に埋めて抑えるための溝を掘る（「サク」を切る。）ため、サク切りひもを張る。

写 真	説 明
	紐の上を棒の端部で押さえて固定する。
	マルチフィルムの有効幅 90 cmを離して、サク切り紐の棒を立てて、サクを切った後に引っ張れば、対面のサクを切るラインを一人でも行ったり来たりしないで、決めることができる。(黒川の農家から教わった知恵)
	鍬（くわ）を使ってサクを切る。

写 真	説 明
	対面のサクを切る。
	マルチフィルムを止めるため、始点と終点に横断方向の溝を掘る。
	サクの切れた状態
	マルチフィルム（幅 135 cm、有効幅 90 cm）を始点に置く。

写 真	説 明
	始点の溝にマルチフィルム入れ、土をしっ かり埋め戻し、
	棒を通したマルチフィルムのロールを緊 張（テンション）をかけながら張る。低い位 置にロール高さを決めて張るのがたわまな いコツ。張りながら足で側面のマルチフィル ムを横方向に引っ張り土をかけて固定する のがコツ。撮影の足の位置は間違っている。 （溝の上のマルチフィルムに足を乗せ外側 に力かける。）
	支柱となる鋼管製のイボ竹を立てる。

写 真	説 明
	支柱を紐で結び、梁の役目をする支柱を通して固定する。
	今回、定植する苗。 (左) ゼいたくトマト (大玉) (中) ゼいたくトマトゴールド (大玉) (右) サマーキッス (大玉) 家庭園芸の場合は苗は1段目の花が開花するまで、一回り大きいポットに植え替え、養生するとよい。(露地では根域制限がないため、葉茎の成長が勝り花つきが遅くなる。)
	(ゼいたくトマト) いずれも日本デルモンテ製でCMV (キュウリモザイクウィルス) のワクチンが摂取していたため、CMVにかかりにくい。

写 真	説 明
	カッターで十字の穴を開ける。 株間 60 cm（農家は 40～45 cmが多い。） 
	根鉢の大きさが入る分だけの穴を掘る。
	植え穴にジョウロで水を入れる。

写 真	説 明
	植え穴にビニールポットから出した苗を入れる。
	
	苗がしっかりと植え穴になじむよう、土を寄せて軽く抑える。

写 真	説 明
	ビニール紐又は結束テープで誘引する。 ビニール紐は八の字に交差させて、支柱側で結ぶのがこつ。茎が細いうちもグラつかず、太くなくても紐にくい込まない。 苗が小さいときは仮支柱を立てるとよい。
	ジョウロでたっぷりと灌水する。